

第 102 回 学長選考・監察会議議事概要

- 1 日 時 令和 7 年 6 月 3 日（火）17 時 30 分～18 時 15 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 三輪委員，伊藤委員，佐久間委員，森委員，鈴木委員，佐藤委員，
菊地委員，小野寺委員 以上 8 名
＊オブザーバー：岡監事，赤塚監事

4 議事概要の確認

第 100 回及び第 101 回学長選考・監察会議議事概要が確認され，承認された。

5 議事

（１）国立大学法人新潟大学学長選考・監察会議規則等の改正について

事務局から，５月 8 日開催の第 100 回学長選考・監察会議において継続審議となった本会議規則等の改正について，資料 1－1 に基づき，その後，各委員から寄せられた意見，提案等を踏まえ見直した学長選考基準の改正案の説明があり，審議の結果，案 4 の学長候補者の選定プロセスとすることが承認され，一部文言修正した改正案を後日書面審議することとなった。

また，学長選考・監察会議規則について，資料 1－2 に基づき，審議の結果，原案どおり承認された。

なお，本会議の委員が候補者になった場合の当該委員の辞職，後任補充等の制度を学長選考・監察会議規則に規定することについては，検討に時間を要することから，本年実施する学長選考では見送り，次回の学長選考に向けて引き続き検討することとなった。

（主な意見及び質疑等：○委員等の発言，■事務局の発言）

○合議制機関としての公平性・民主制の観点や，会議全体の意思決定としての対外的な説明しやすさ，議長個人の過度な負担の回避などを踏まえると議長による選定にはこだわらない。多面的評価は，候補者との接点が限られる学外委員にとって評価項目によっては評価が困難と思われる。

○多面的評価は評価項目の設定が難しい。選定の長期化は必ずしも悪いことではなく，時間をかけて議論した上で選定することが社会への説明責任にもなるので，全体で合意形成を図ることが望ましい。

○再討議プロセスにより，意見を変えた委員が決定権を握ることになるため，最終的には議長が選定する方がよいのではないか。白票の取扱い，本会議では一貫して白票は除くとする方がよい。

- 一貫して白票を除く取扱いとした場合、もし白票が多かった場合に、少人数の支持で学長が選定されることが懸念される。
- 議長は重い役割を担っているので、議長が2票持つということではなく、投票の最終結果を踏まえて議長が選定するのがよいと考えている。白票は、本来有効投票には入らないと思うので除くべきと思うが、様々な観点から案4がよいということであれば構わない。
- 多面的評価を検討するには、時間が足りないと考える。
- 本会議の委員が候補者になった場合の取扱いについて、現行規則は課題があるため、次回の学長選考までには見直しをお願いしたい。
- 資料1－1の2ページ上段「主な論点」欄の「④委員が学長選考候補者になった場合」に関する記載は、事務局での検討段階の記載のため削除させていただきたい。また、案4の（3）に記載した「上位得票者3人（末位同数の者が～）」は、2人以下もあり得ることから「上位得票者3人まで（末位同数の者が～）」に修正させていただきたい。

（2）学長候補者選考に係る公示事項の掲示場所について

議長から、資料2に基づき、学長候補者選考に係る公示事項の掲示場所について、5月28日付け公示事項の掲示後、一部の掲示場所において変更の必要が生じた旨の説明があり、審議の結果、承認された。

（主な意見及び質疑等）

- ・なし

6 その他

事務局から、令和7年6月24日経営協議会に引き続き経営協議会学外委員の会を開催し、学長選考候補者の推薦について審議予定である旨の報告があった。